

農作物病害虫発生現況情報（6月） 水稻編

1 ばか苗病

(1) 6月中旬（6/14～23）の巡回調査（県内148地点）では、13圃場で発生が確認された。発生圃場数は昨年より多かった（表1）。

表1 本田におけるばか苗病発生状況

地域	調査圃場数	発生圃場数	(参考)	
			R2発生圃場数	R1発生圃場数
県中	56	4	0	1
県北	26	3	0	0
県南	54	5	4	0
遠野	12	1	0	0
全県	148	13	4	1

2 いもち病

- (1) 基準圃場（北上市成田、無防除）では、葉いもちの発生は確認されていない（6月28日現在、接種日6月22日）。
- (2) 6月上旬の巡回調査では、県南部の4地点において取置苗での発病が確認された（令和3年6月4日発表病害虫防除速報No. 7を参照）。
- (3) 6月中旬の巡回調査では、本田での発生は確認されなかった。

3 イネミズゾウムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田、無防除）では、5月第5半旬から第6半旬にかけて、食害度の増加が見られた（侵入盛期）（図1）。
- (2) 6月中旬の巡回調査（県内148地点）では、発生圃場率は24.3%（平年27.6%）で平年並であった（図2）。
- (3) 地域別では、岩手、胆江、東磐井、二戸地域で食害程度（中以上）が高かった（図3）。

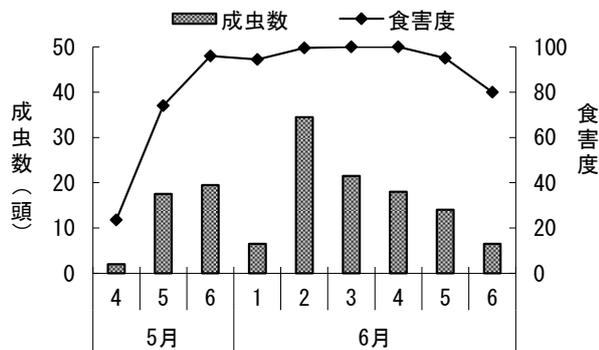


図1 基準圃場におけるイネミズゾウムシ成虫の発生活動と食害度

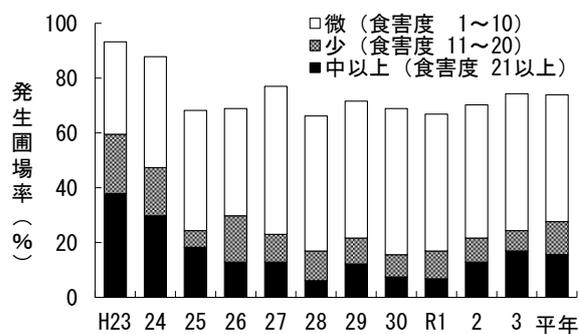


図2 イネミズゾウムシ発生圃場率の年次推移（6月中旬、食害度）

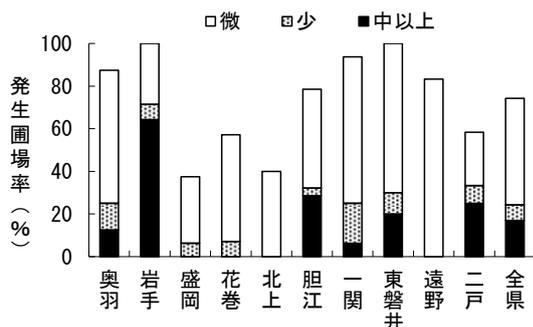


図3 地域別のイネミズゾウムシ発生圃場率（6月中旬、食害度）

4 イネドロオイムシ

(1) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は5.4% (平年3.4%) で平年より高かった (図4)。

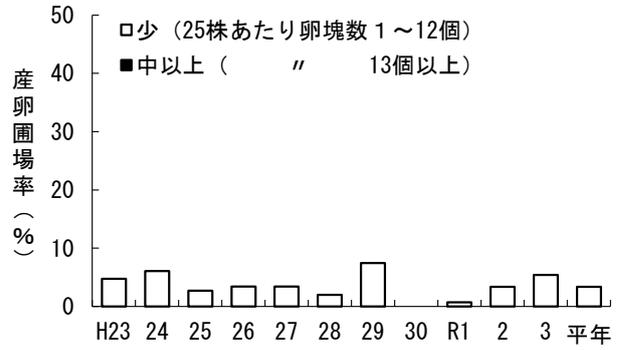


図4 イネドロオイムシ産卵圃場率の年次推移 (6月中旬、程度は25株当たり卵塊数)

5 斑点米カメムシ類

(1) 基準圃場 (北上市成田、イタリアンライグラス) におけるすくい取り調査では、6月第2半旬からアカスジカメムシ成虫の発生が確認された (図5)。

(2) 6月中旬の水田畦畔すくい取り調査 (県内39地点) では、斑点米カメムシ類の発生圃場率は41.0% (平年29.4%) で平年よりやや高かった (図6)。

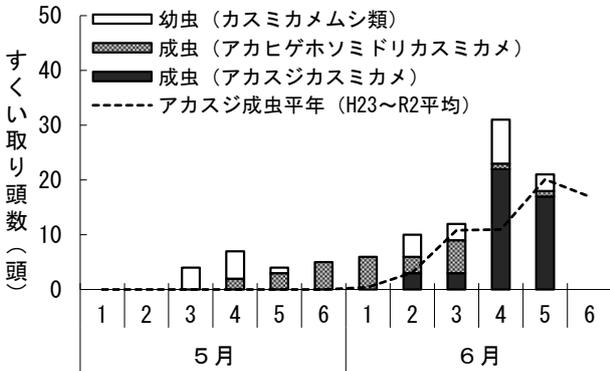


図5 基準圃場 (北上市成田、イタリアンライグラス) における斑点米カメムシ類発消長 (往復20回振)

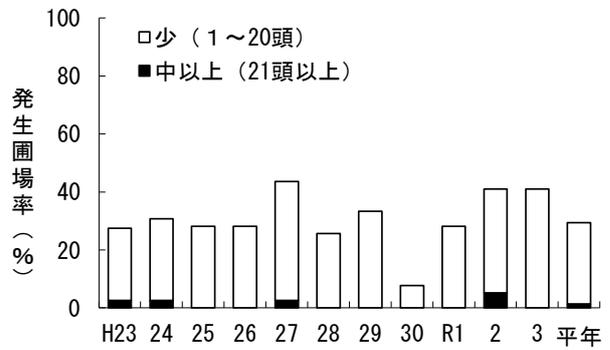


図6 斑点米カメムシ類発生圃場率の年次推移 (水田畦畔、往復20回振)

6 コバネイナゴ

(1) 6月中旬の水田畦畔すくい取り調査 (県内39地点) では、発生圃場率は64.1% (平年50.4%) で平年よりやや高かった (図7)。

7 フタオビコヤガ (イネアオムシ)

(1) 6月中旬の本田すくい取り調査 (県内39地点) では、幼虫の発生は確認されなかったが、巡回調査 (県内148地点) では、1圃場で発生が確認された (図8)。

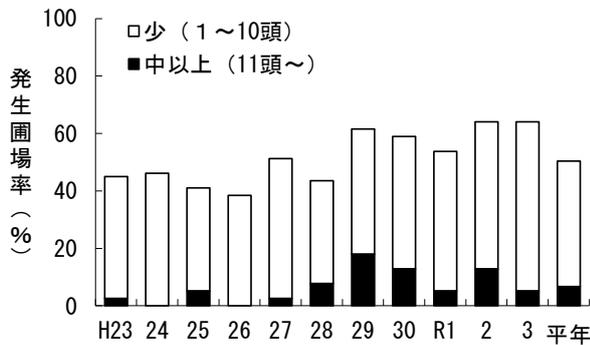


図7 コバネイナゴ発生圃場率の年次推移 (6月中旬、水田畦畔、往復20回振)

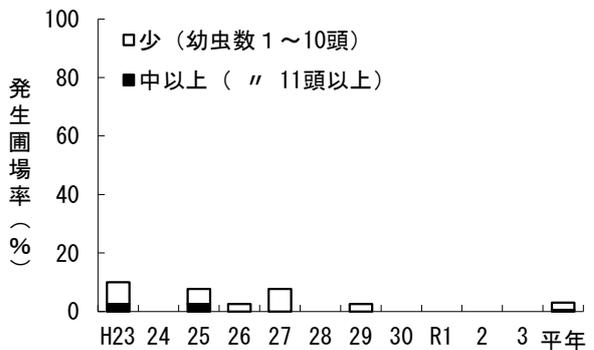


図8 フタオビコヤガ (イネアオムシ) 幼虫発生圃場率の年次推移 (6月中旬、本田、往復20回振)

農作物病害虫発生現況情報（6月）麦 編

1 うどんこ病

- (1) 6月中旬の巡回調査では、発生は平年並に少なかった（図1）。
- (2) 発生が確認されたのは、1圃場（ネバリゴシ）のみだった。

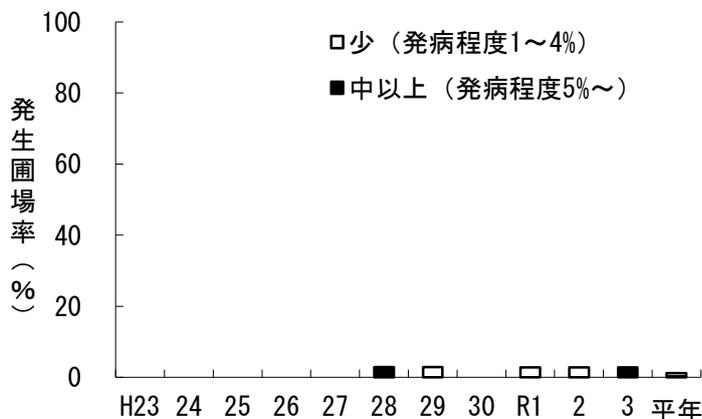


図1 うどんこ病の発生圃場率の年次推移（6月中旬）

2 赤かび病

- (1) 6月中旬の巡回調査では、発生圃場率は22.9%（平年12.0%）で平年より高かった（図2）。
- (2) 地域別では、県中部と県南部で発生圃場率、平均発病穂率ともに高かった（表1）。

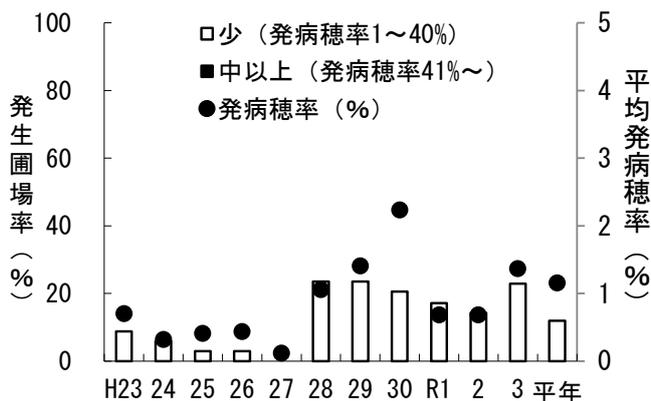


表1 地域別の赤かび病発生状況

地域	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率 (%)	平均発病穂率 (%)※
県北	6	0	0.0	-
県中	24	6	25.0	6.7
県南	5	2	40.0	4.0
全県	35	8	22.9	

※発生圃場における平均発病穂率

図2 赤かび病の発生圃場率の年次推移（6月中旬）

3 さび病類（赤さび病）

- (1) 6月中旬の巡回調査では、発生圃場率は20.0%（平年18.2%）で平年並だった（図3）。

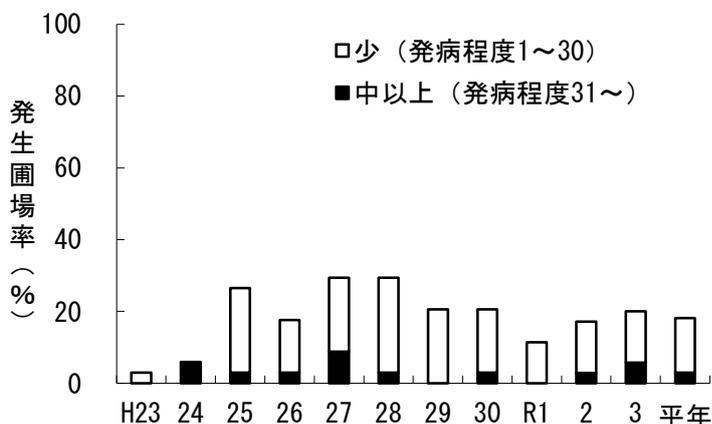


図3 赤さび病の発生圃場率の年次推移（6月中旬）

農作物病害虫発生現況情報（6月）りんご編

1 モニリア病

(1) 6月前半の巡回調査では、発生が確認されなかった(図1)。

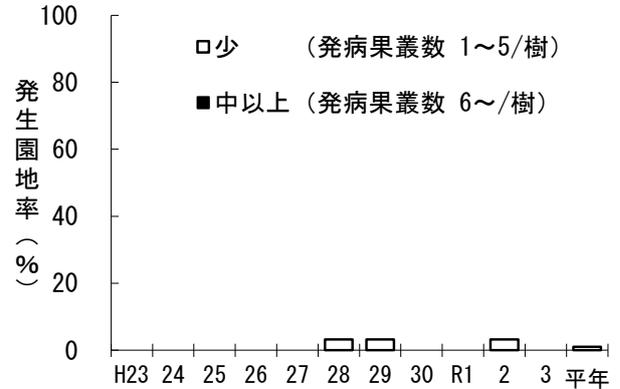


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移
(6月前半、実ぐされ及び株ぐされ)

2 斑点落葉病

(1) 基準圃場(北上市成田、スターキングデリシャス、無防除)における初発は例年並の6月第1半旬となり、発病葉率は6月第5半旬まで平年より低く推移した(図2)。

(2) 6月後半の巡回調査では、「ふじ」の発生園地率は16.1%(平年18.7%)で平年並だった(図3)。

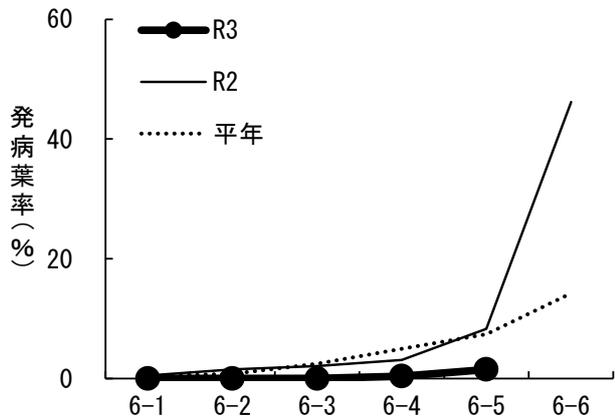


図2 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移
(月-半旬、新梢葉)

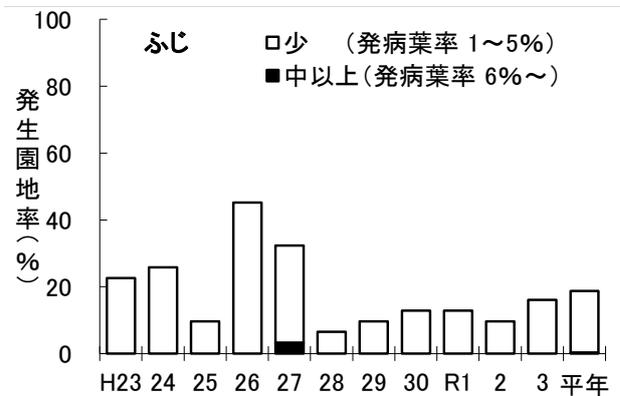


図3 斑点落葉病の発生園地率の年次推移
(6月後半、新梢葉、ふじ)

3 黒星病

(1) 6月後半の巡回調査では、新梢葉の発生園地率は25.8%(平年4.5%)、発生程度中以上の園地率は9.7%(平年0.3%)であり、いずれも平年より高かった(図4)。

(2) 県内で広く発生しており、特に県中部で発生園地率が高かった(図5)。

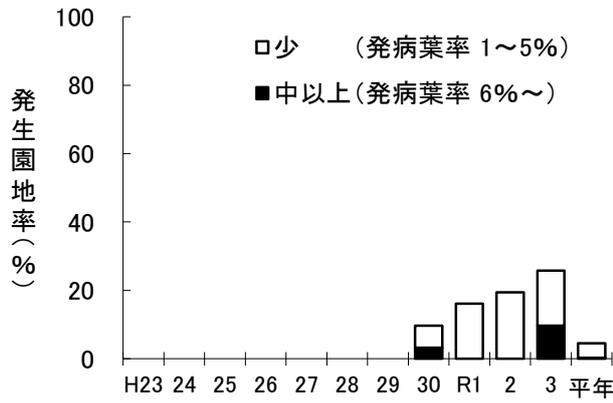


図4 黒星病の年次別発生園地率
(6月後半、新梢葉)

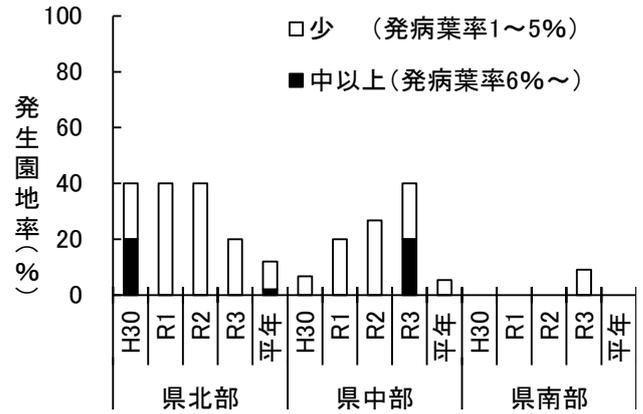


図5 黒星病の地域別発生園地率
(6月後半、新梢葉)

4 赤星病

(1) 6月後半の巡回調査では、発生園地率は3.2% (平年4.2%) で平年並だった (図6)。

5 うどんこ病

(1) 6月後半の巡回調査では、発生園地率は3.2% (平年1.3%) で平年並だった (図7)。

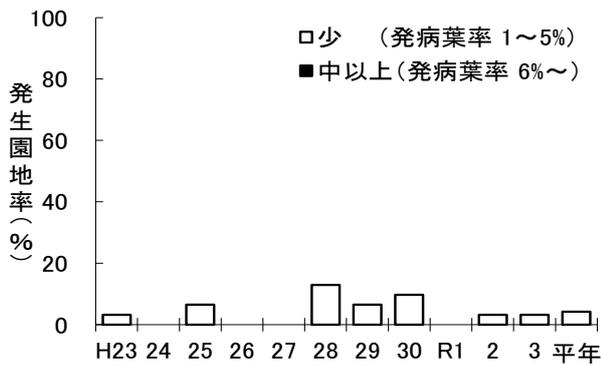


図6 赤星病の発生園地率の年次推移
(6月後半、新梢葉)

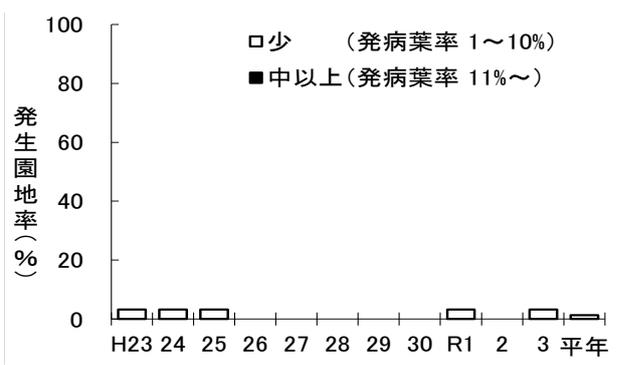


図7 うどんこ病の発生園地率の年次推移
(6月後半、新梢葉)

6 褐斑病

(1) 基準圃場 (北上市成田、ふじ、無防除) における初発は例年よりやや早い6月第2半旬となり、6月第5半旬時点の発病葉率は4.0% (平年0.2%) で平年より高かった (図8)。

(2) 6月後半の巡回調査での発生は確認されなかった (図9)。

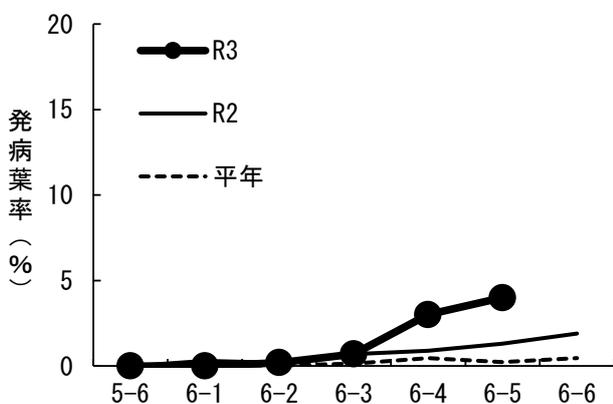


図8 基準圃場における褐斑病の発病葉率の時期別推移 (ふじ、新梢葉、無防除)

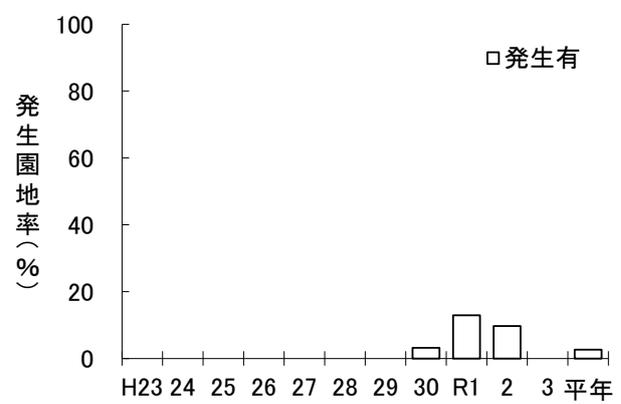


図9 褐斑病の発生園地率の年次推移 (6月後半)

7 キンモンホソガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）における第1世代成虫のフェロモントラップへの誘殺は、平年より2半旬早い6月第2半旬に発生ピークが確認された（図10）。
- (2) 6月前半の巡回調査では、発生園地率は12.9%（平年10.6%）で平年並だった（図11）。

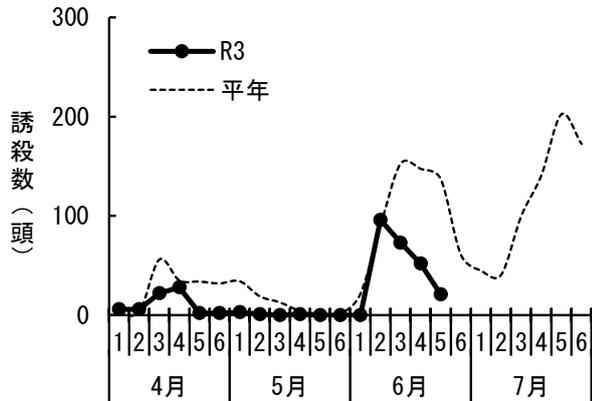


図10 基準圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況 (北上市成田、無防除)

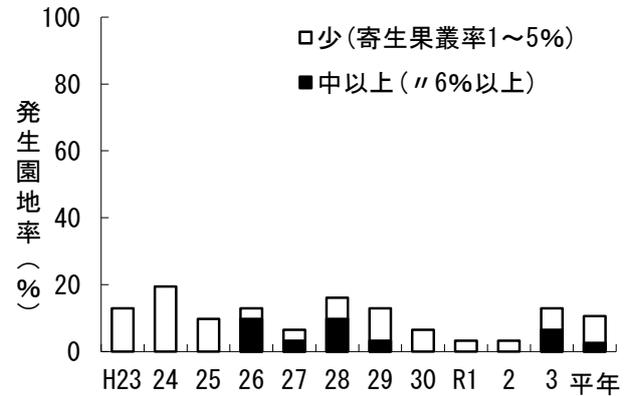


図11 キンモンホソガの発生園地率の年次推移 (6月前半、果叢葉)

8 リンゴハダニ

- (1) 6月後半の巡回調査では、果叢葉の発生園地率は19.4%（平年21.3%）で、平年並だった（図12）。
- (2) 時期別発生園地率は6月前半、6月後半のいずれも平年並だった（図13）。
- (3) 6月後半の地域別発生状況は、県南部で発生程度中以上の園地があった（図14）。

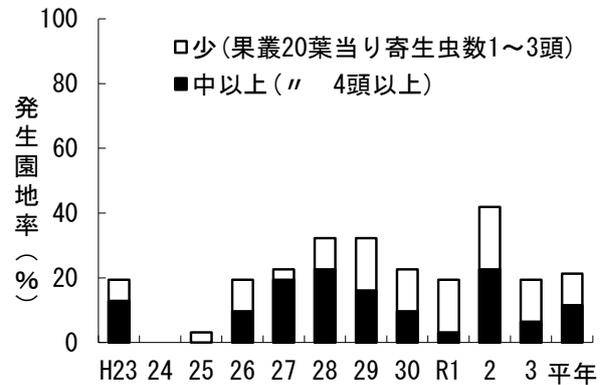


図12 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (6月後半、果叢葉)

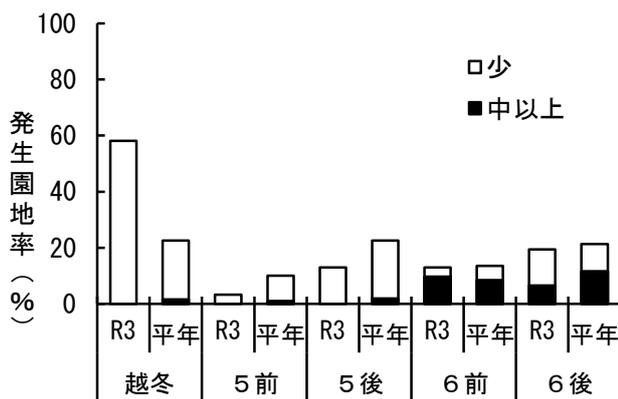


図13 リンゴハダニの時期別発生園地率の推移 (果叢葉)

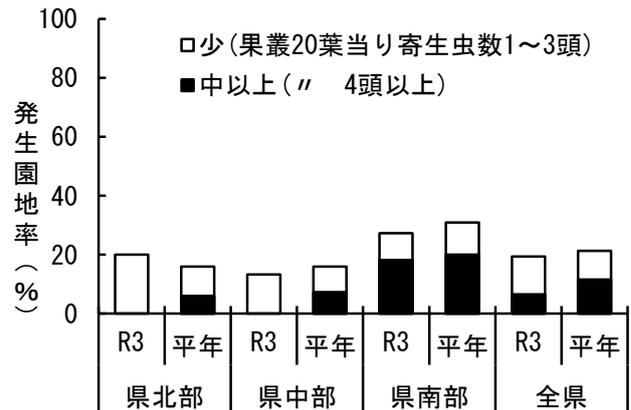


図14 リンゴハダニの地域別発生状況 (6月後半、果叢葉)

9 ナミハダニ

- (1) 6月後半の巡回調査では、果叢葉の発生園地率は12.9%（平年33.5%）で、平年より低かった（図15）。
- (2) 時期別発生園地率は、6月前半以降、平年より低く推移している（図16）。
- (3) 6月後半の地域別発生状況は、県北部及び県中部で発生程度中以上の園地があった（図17）。

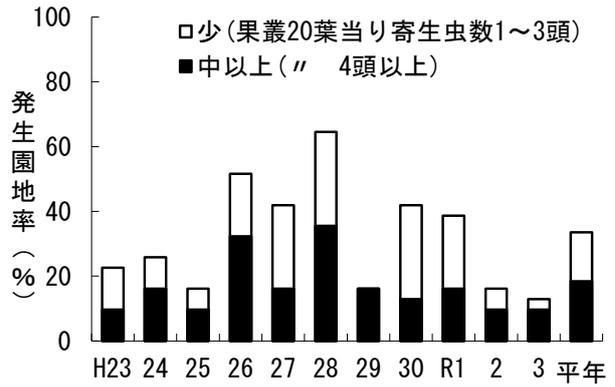


図15 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (6月後半、果叢葉)

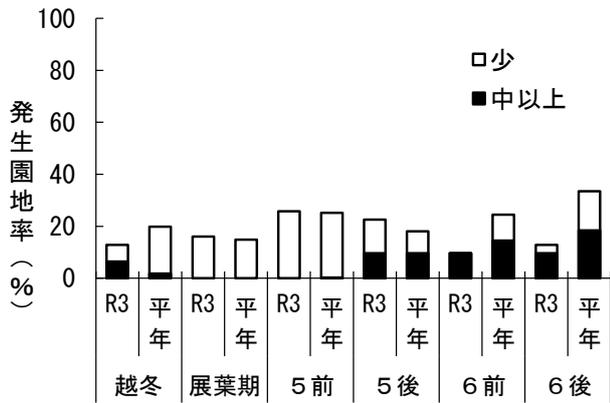


図16 ナミハダニの時期別発生園地率の推移 (果叢葉)

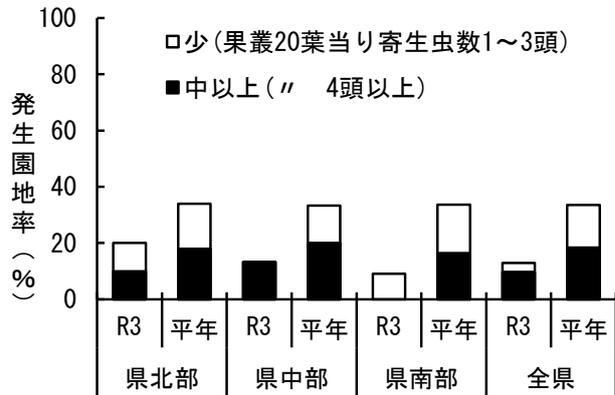


図17 ナミハダニの地域別発生状況 (6月後半、果叢葉)

10 アブラムシ類

- (1) 巡回調査での6月前半の発生園地率は90.3%（平年67.1%）で平年より高く、6月後半は38.7%（平年40.3%）で平年並だった（図18）。
- (2) 発生が見られた種は、ユキヤナギアブラムシ、リンゴミドリアブラムシであった。

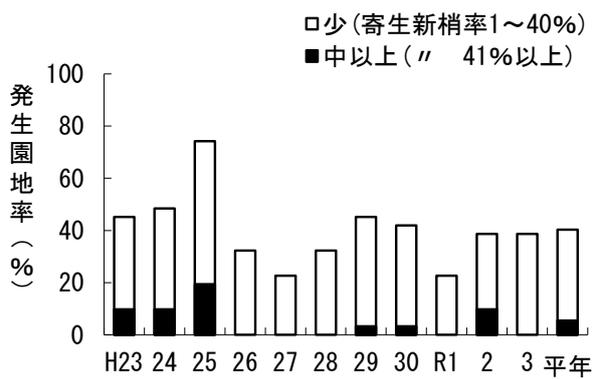
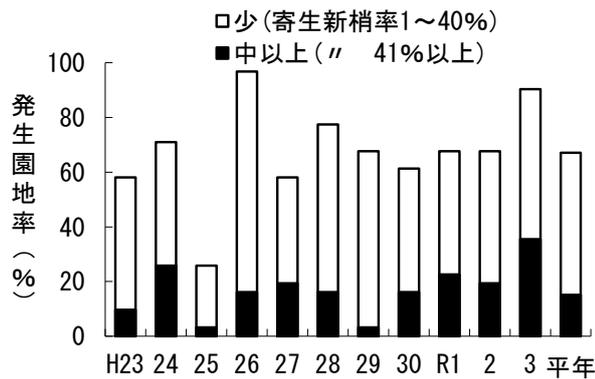


図18 アブラムシ類の発生園地率の年次推移 (左：6月前半、右：6月後半)

11 モモチョッキリゾウムシ

- (1) 6月前半の巡回調査では、発生園地率は3.2%（平年6.1%）で平年並だった（図19）。

12 ギンモンハモグリガ

- (1) 6月後半の巡回調査では、被害葉は確認されなかった（図20）。

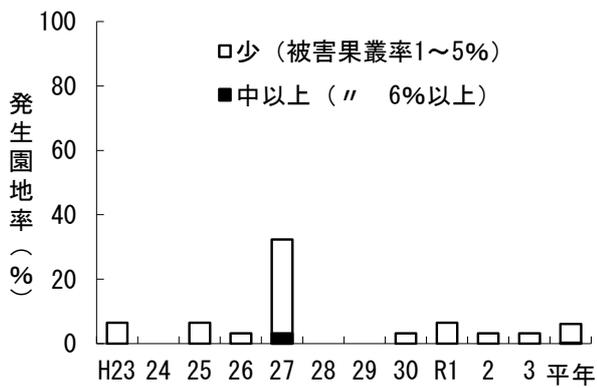


図19 モモチョッキリゾウムシの発生園地率の年次推移（6月前半、被害果）

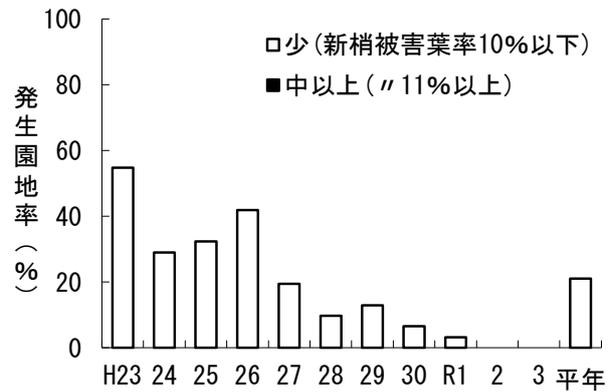


図20 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移（6月後半、被害葉）

13 果樹カメムシ類

- 巡回調査での6月前半の被害果の発生園地率は16.1%（平年6.5%）、6月後半は38.7%（平年11.3%）でいずれも平年より高く、発生程度中以上の園地も確認された（図21）。
- 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、基準圃場は平年並、現地圃場は平年より少なく推移している（図22、23）。

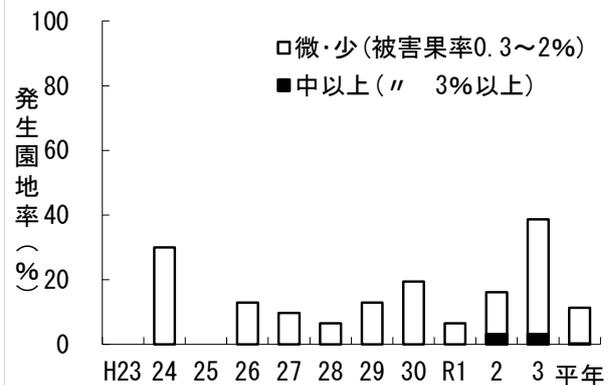
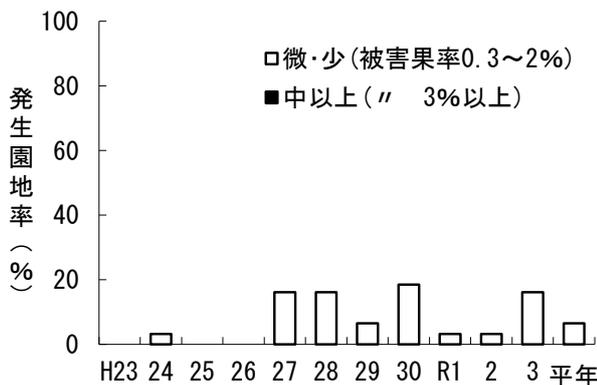


図21 果樹カメムシ類の発生園地率の年次推移（ふじ、被害果、左：6月前半、右：6月後半）

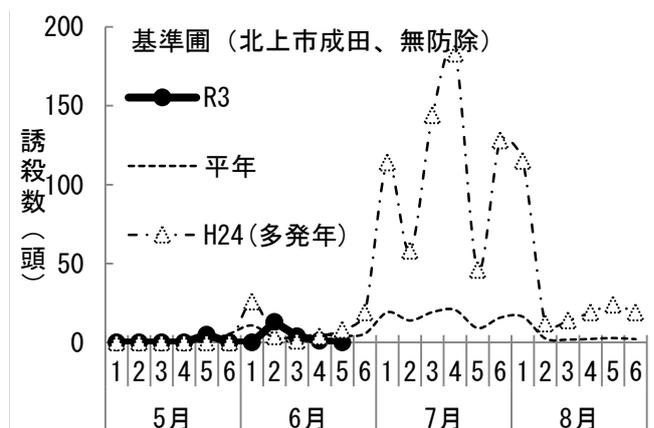
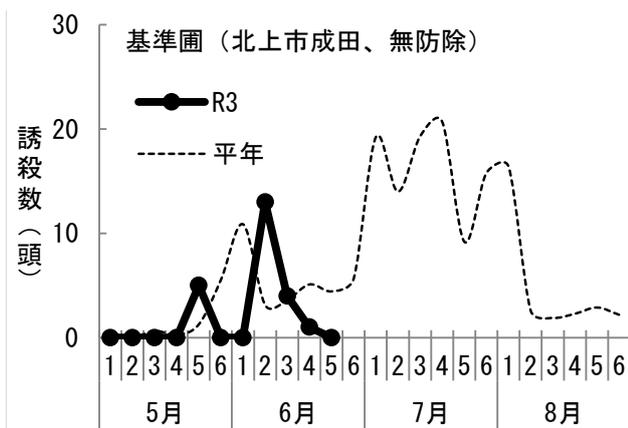


図22 基準圃場におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況（北上市成田、無防除）

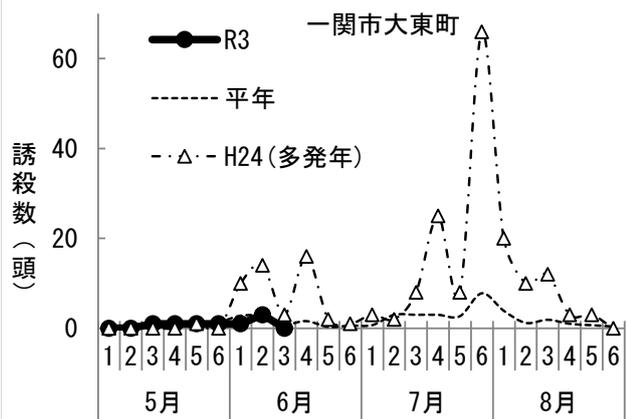
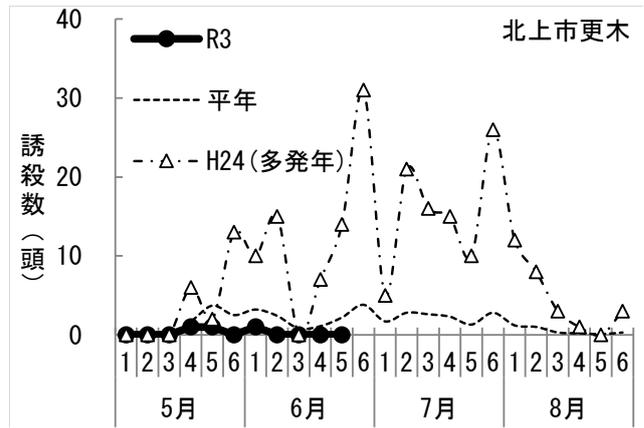
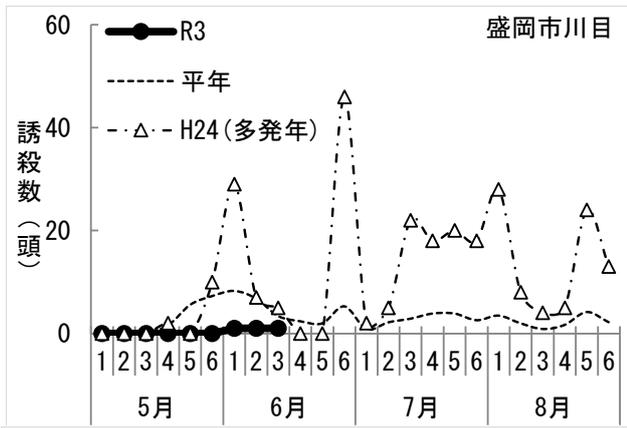


図 23 現地におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況
(左上：盛岡市川目、右上：北上市更木、左下：一関市大東町)

農作物病害虫発生現況情報（6月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は7.7%（平年3.1%）で、ほぼ平年並であった（図1）。

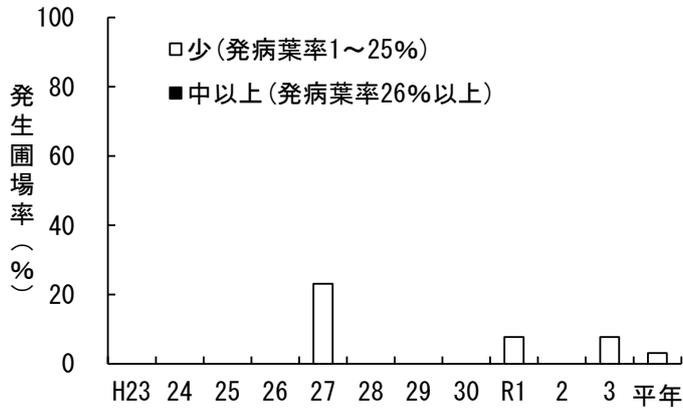


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

2 うどんこ病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年6.2%、図2）。

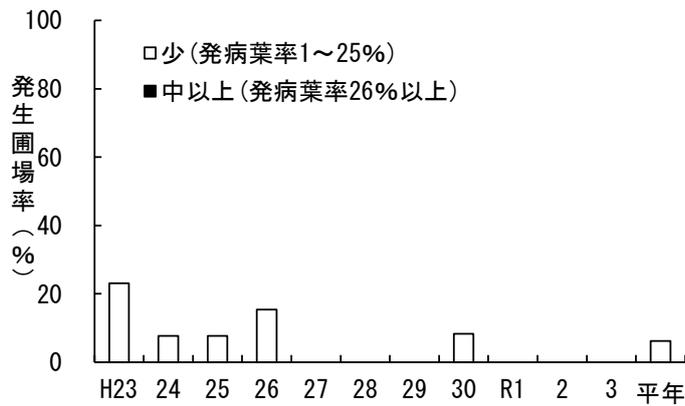


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

3 斑点細菌病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は46.2%（平年34.4%）で、平年より高かった（図3）。

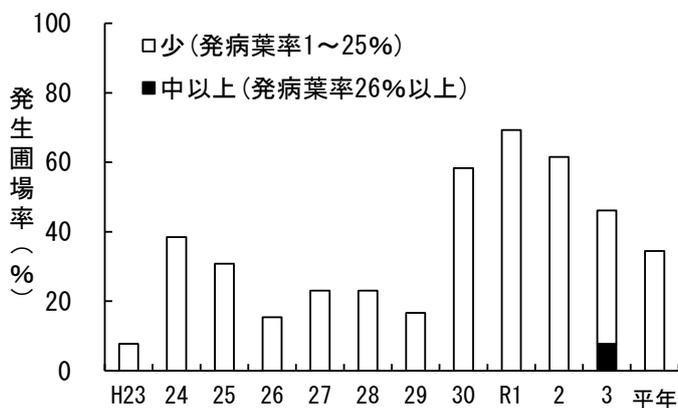


図3 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

4 黒星病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は7.7% (平年29.4%) で、平年より低かった (図4)。

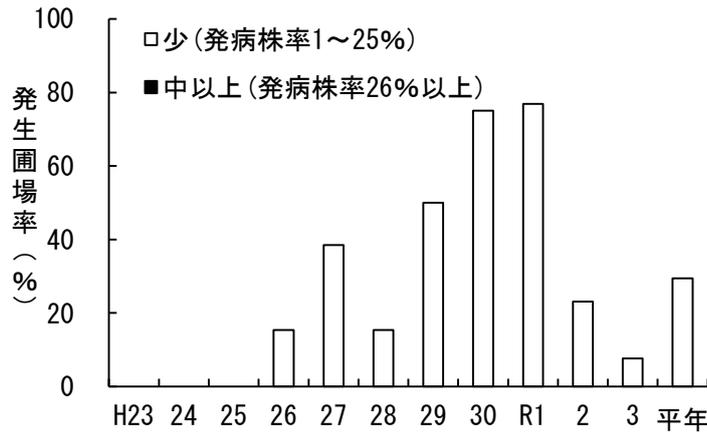


図4 黒星病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

5 ワタアブラムシ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は30.8% (平年43.0%) で、平年より低かった (図5)。

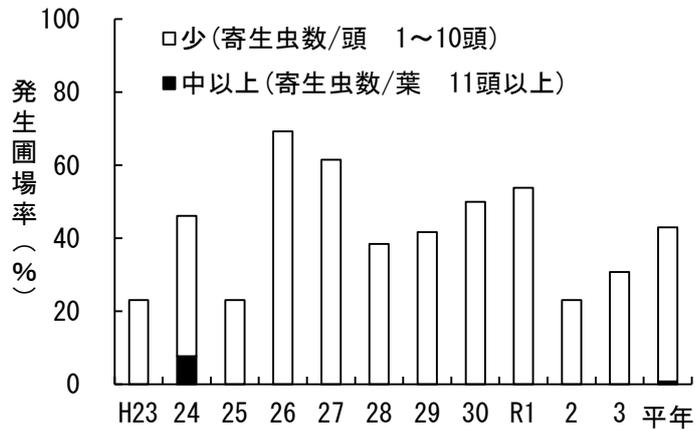


図5 ワタアブラムシの発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

6 ハダニ類

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった (平年13.9%、図6)。

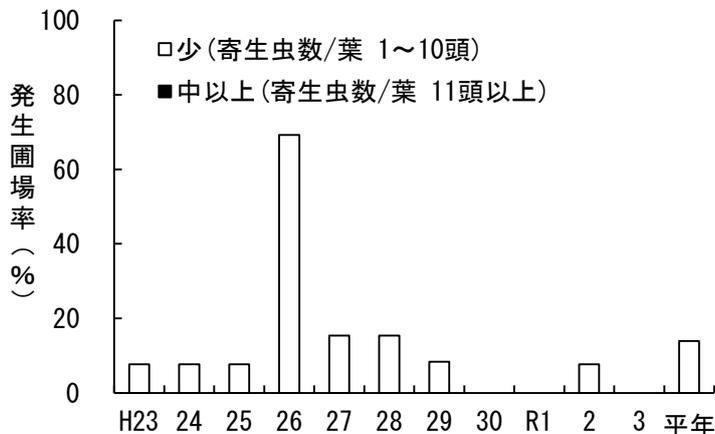


図6 ハダニ類の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（6月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、6月第3半旬にピークが見られた（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年並に推移した（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、6月第1半旬と第3半旬に増加した（図3）。
- (4) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃率は確認されず（平年28.0%）、幼虫発生圃場率は20.0%（平年30.1%）で、平年より低かった（図4、5）。

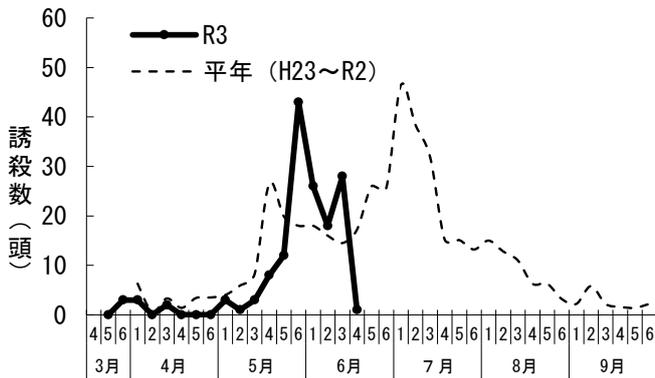


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

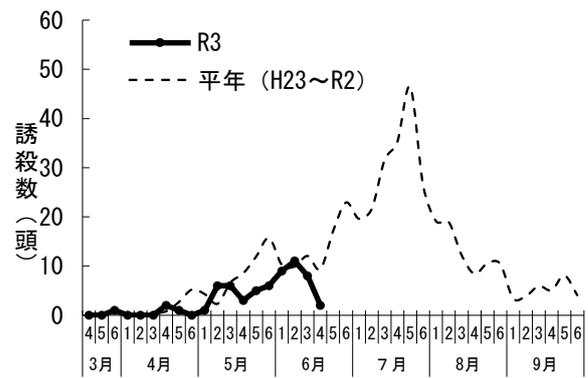


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

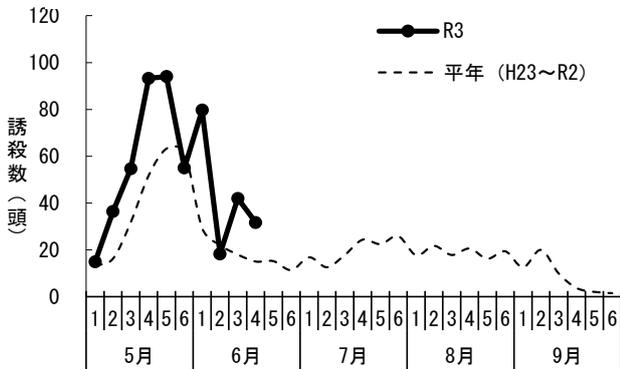


図3 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

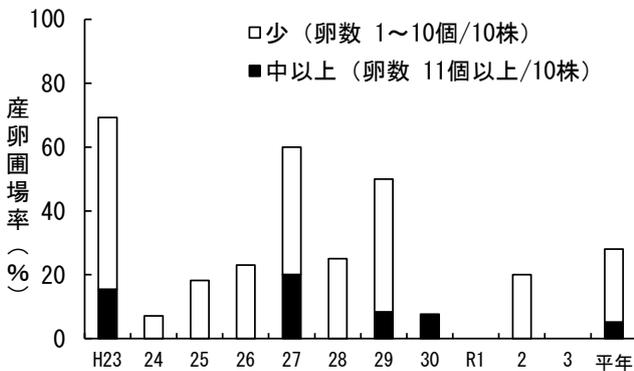


図4 コナガの産卵圃場率の年次推移（6月中旬）

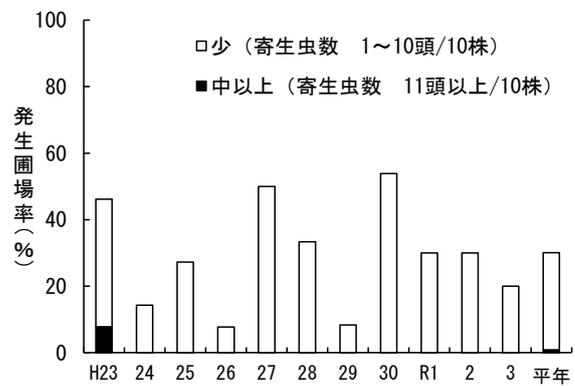


図5 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（6月中旬）

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップによる越冬世代の誘殺は、6月は確認されなかった（図6）。
- (2) 岩手町におけるフェロモントラップによる越冬世代の誘殺数は、6月第3半旬まで確認され、ほぼ平年並であった（図7）。
- (3) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は10.0%（平年35.3%）であり、平年より低かった（図8）。

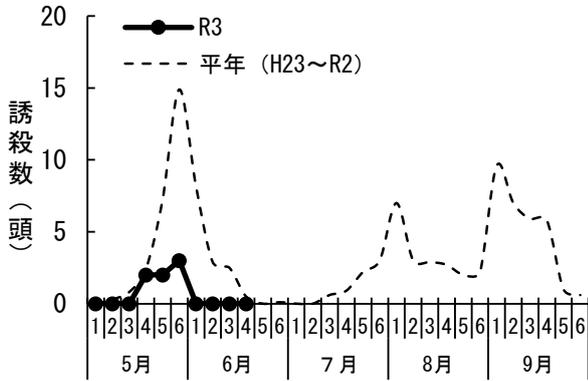


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

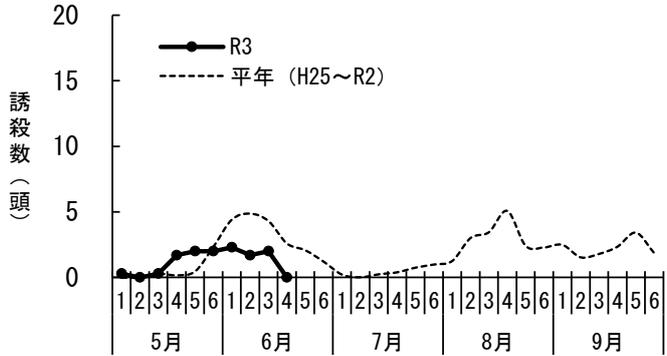


図7 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

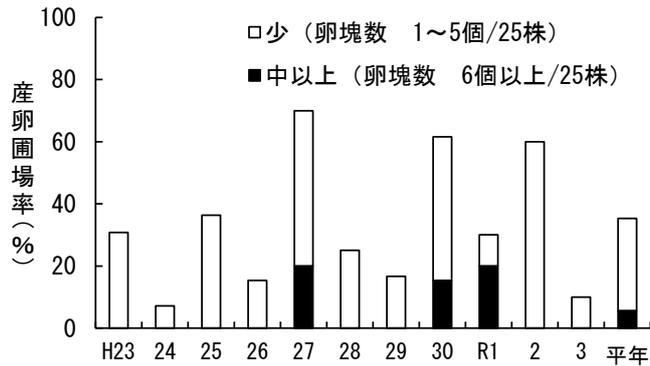


図8 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（6月中旬）

3 タマナギンウワバ

- (1) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、6月第1半旬までは平年より多かったが、以降はおおむね平年より少なかった(図9)。
- (2) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、おおむね平年より少なかった(図10)。
- (3) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は50.0%(平年48.4%)で平年並であったが、幼虫の発生圃場率は30.0%(平年19.3%)で、平年より高かった(図11、12)。

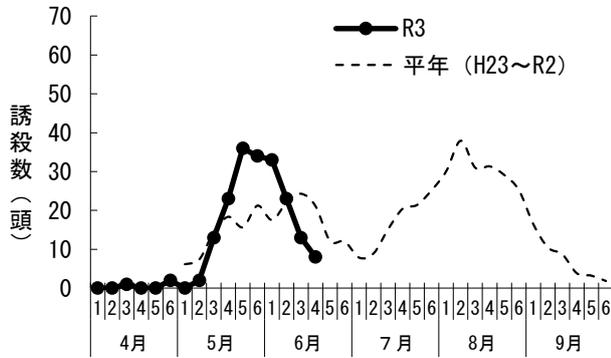


図9 軽米町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

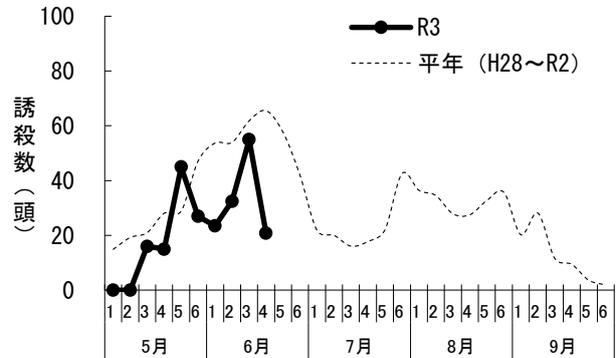


図10 岩手町におけるタマナギンウワバのフェロモントラップ誘殺状況

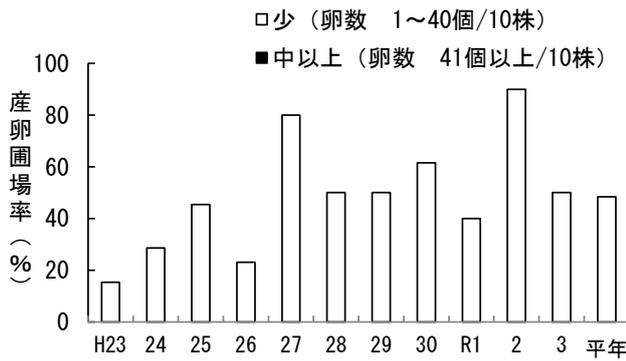


図11 タマナギンウワバ産卵圃場率の年次推移(6月中旬)

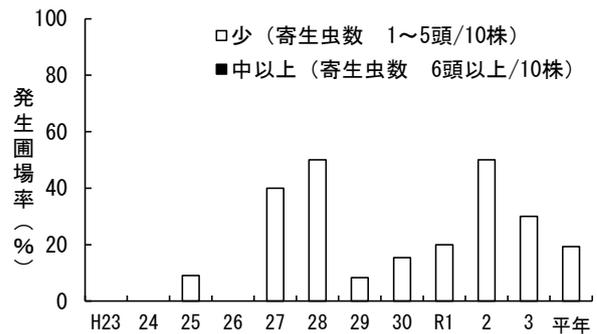


図12 タマナギンウワバ幼虫発生圃場率の年次推移(6月中旬)

4 モンシロチョウ

- (1) 6月中旬の巡回調査では、幼虫の発生は見られなかった(図13)。

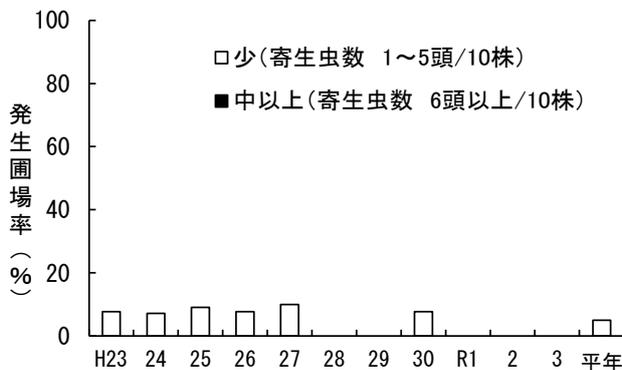


図13 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移(6月中旬)

農作物病害虫発生現況情報（6月） ねぎ編

1 さび病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は30.0%（平年11.0%）であり、平年より高かった（図1）。

2 べと病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年5.0%、図2）。

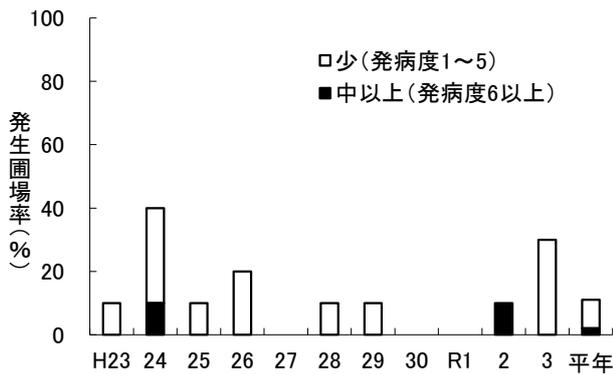


図1 さび病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

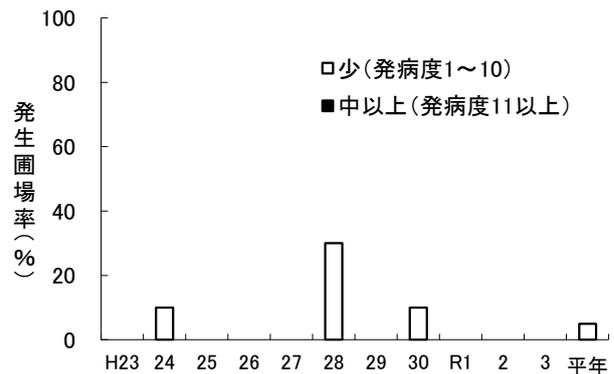


図2 べと病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

3 黒斑病・葉枯病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は10.0%（平年1.0%）であり、平年より高かった（図3）。

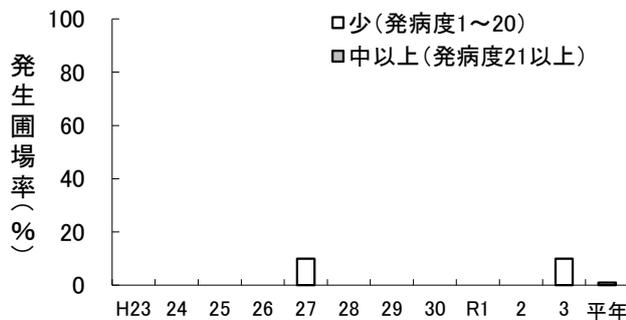


図3 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移（6月下旬）

4 ネギコガ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は60.0%（平年38.4%）であり、平年より高かった（図4）。

(2) 時期別の被害葉率は、6月上旬は平年より低かったが、6月下旬は平年並であった（図5）。

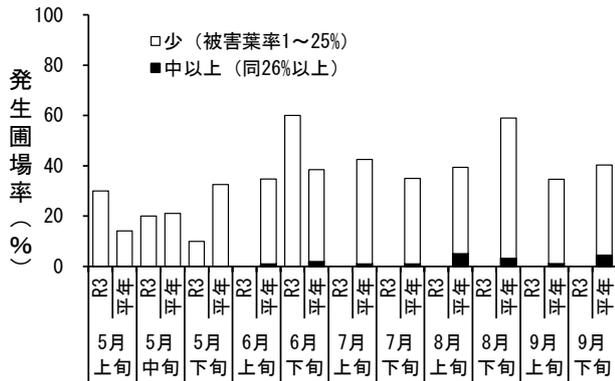


図4 ネギコガの発生圃場率の時期別推移

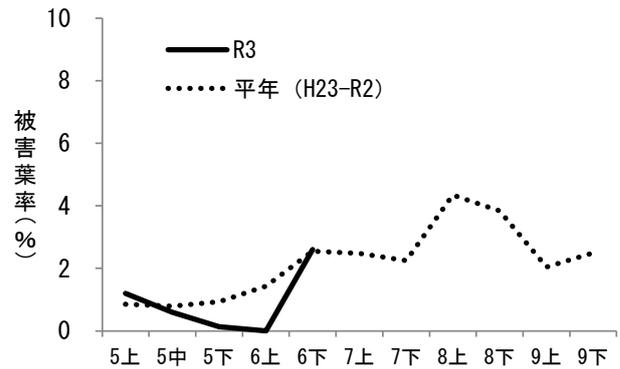


図5 ネギコガによる被害葉率の時期別推移

5 ネギハモグリバエ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は70.0%（平年44.6%）、被害度中以上の圃場率は20.0%（平年11.0%）であり、ともに平年より高かった（図6）。

(2) 時期別の被害度は、6月上旬は平年より低かったが、6月下旬に急激に上昇し、平年より高くなった（図7）。

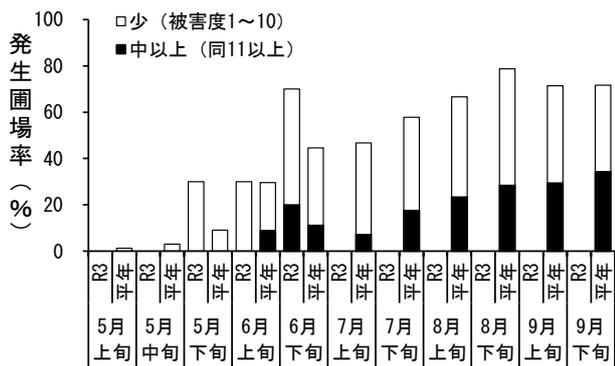


図6 ネギハモグリバエの発生圃場率の時期別推移

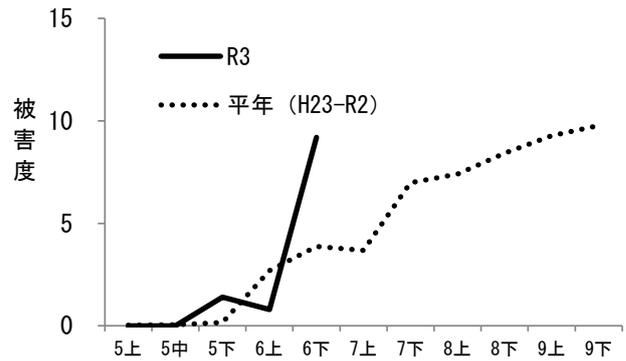


図7 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

6 ネギアザミウマ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年87.0%）、被害度中以上の圃場率は70.0%（平年42.7%）であり、ともに平年より高かった（図8）。

(2) 時期別の被害度は、6月上旬、下旬ともに平年より高くなった（図9）。

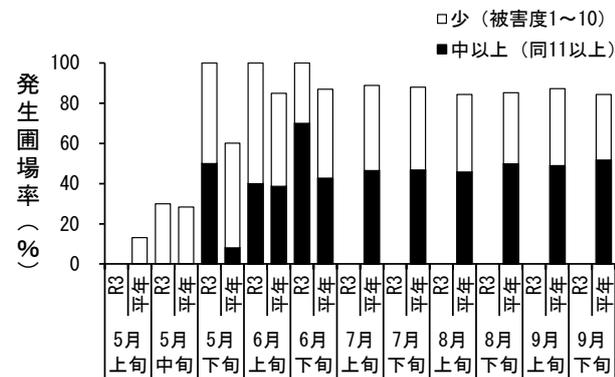


図8 ネギアザミウマの発生圃場率の時期別推移

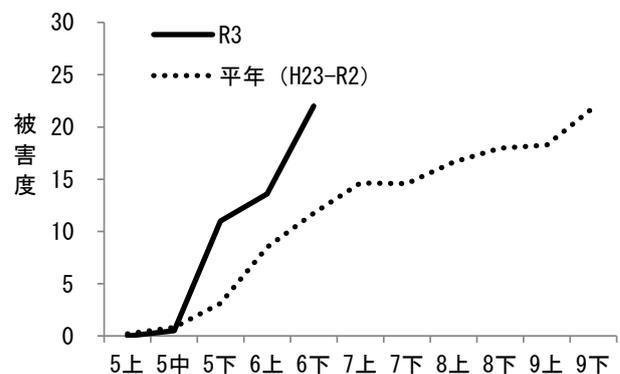


図9 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移

農作物病害虫発生現況情報（6月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は21.4%（平年18.7%）で、平年並であった（図1）。

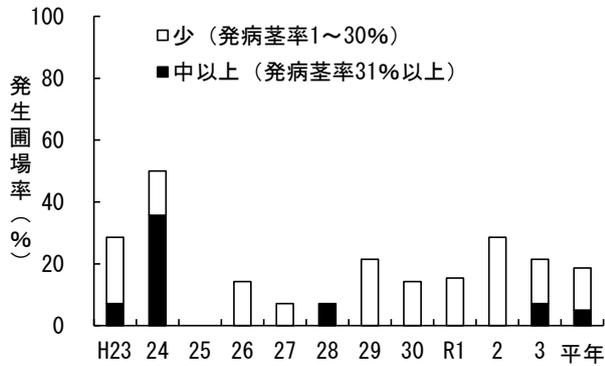


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

2 ハダニ類

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は21.4%（平年26.5%）で、ほぼ平年並であった。（図2）。

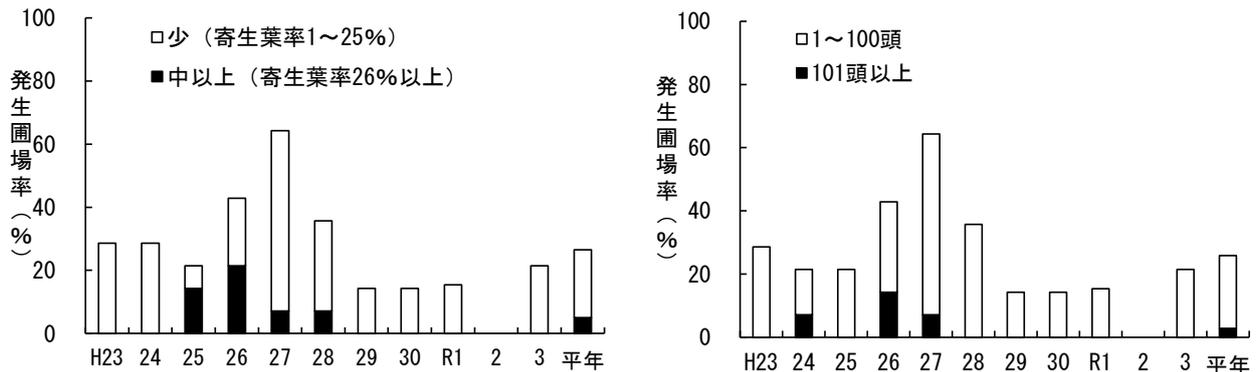


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移 (左：寄生葉率、右：寄生虫数/80葉中、6月下旬)

3 リンドウホソハマキ

(1) 6月下旬の巡回調査では、潜葉痕の発生圃場率は14.3%（平年25.1%）で平年より低く、生長部および茎部被害の発生圃場率は21.4%（平年10.2%）で平年より高かった（図3）。

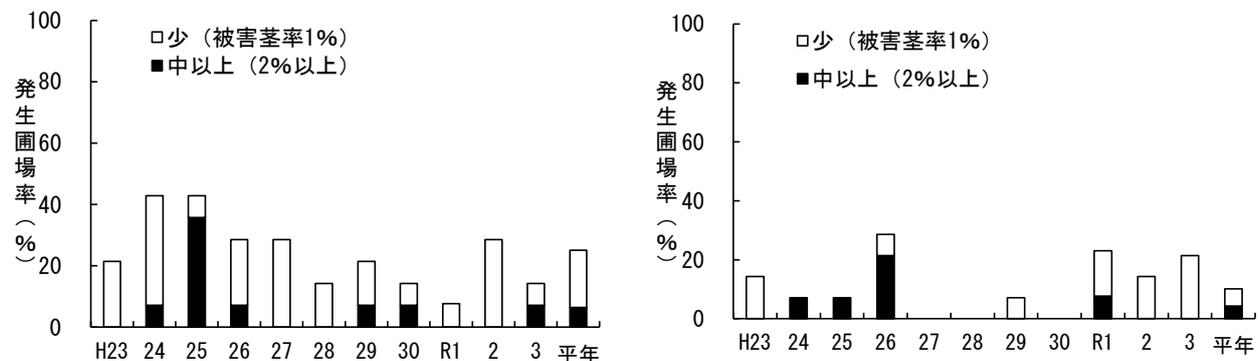


図3 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移 (左：潜葉痕、右：生長部・茎部、6月下旬)